

悔し涙も流した。震えるほどの喜びも味わった。すべてを明日へのチカラに変えて、名古屋から全国へ世界へ、飛躍しようとしているジュニアアスリート達。まさにいま青春ど真ん中。彼女らへのスポーツにかける熱き思いをお届けします。

スピーディに コート駆け回り、 目指すは、金メダル!

ひさみなと なな

久湊 菜々さん

(バドミントン・岡崎城西高校3年生)



プロフィール 大府市のクラブチーム「はりーあっぷJr」で6歳よりバドミントンを始める。各カテゴリーで常に全国大会で上位の成績を取っている。U-19ジュニアナショナルメンバーに所属。名古屋市在住(取材時)。

- 全国小学生バドミントン大会6年女子ダブルス優勝
- 全国中学生バドミントン大会女子シングルス準優勝(3年次)
- 全国高等学校体育大会バドミントン競技女子シングルス(1年次)ベスト8・(3年次)優勝 女子学校対抗ベスト8

——バドミントンを始めたきっかけは?

6歳上の兄がバドミントンのクラブチームに所属していて、そこについて行っていました。楽しそうだな、と幼稚園の年長時に始めました。父と母がやっていたのも大きかったですね。

——今日までがんばってこられた原動力は何ですか?

負けず嫌いだったことでしょうか。クラブに入った当初は、初心者ですから、負けてばかり。勝ちたい、負けたくない、きつい練習も乗り切れたのかな、と思います。

——バドミントンの魅力はどんなところですか?

相手と駆け引きををするところです。自分が良いショットを打ったとしても、相手がそれを読んでいたら、逆に相手のチャンスになってしまいます。どう読むか、どこを狙うかで勝敗が決まる、奥深さが一番の魅力です。

——ではご自身のプレーの魅了、強みはどんなところですか?

身長が高くないですから、フットワークを活かしてコートを動き回るスピードです。プレースタイルが似ている奥原希望選手が目標であり、お手本としています。

——普段の練習で心がけていることはありますか?

私の強みであるスピードをどう活かすか、スピード一辺倒だけではなく、緩急をつける、動きの強弱をつけることを心がけています。具体的には、動きが速い分、単調な球になりやすくて、スピードコントロールを意識して練習しています。

——今日までバドミントン続けてきたうれしかったことは?

絶対に優勝するんだ、という強い思いを持ってのぞんだ昨年のインターハイの優勝です。富山で開催されたのですが、父の実家がもともと富山でした。祖父もバドミントンをやっていて、私の活躍を楽しみに、どの試合も見に来てくれていたのですが、小学校1年生の時に亡くなりました。富山開催ということで、自分の中で燃えていたので、特に……。

(藤井先生) そうだったんだ……。スピードを活かした攻めができていましたね。



——逆に悔しかったことはありますか?

パッと思い浮かぶのは、高校1年生の時のJOC(ジュニアオリンピックカップ)の1回戦負けです。その1か月前に行われたインターハイではベスト8、1年生では私だけでした。JOCは2年生までの大会でしたから、良い成績を残して当然だと自分でプレッシャーを感じてしまい、チグハグなプレーになってしまいました。

——それがあったから昨年のインターハイで優勝できたんでしょうね。春からは実業団に所属が決まっているそうですね。

インターハイで優勝したおかげで、昨年末に開催された全日本総合選手権に本戦から出場できました。結果は1回戦負け。社会人との経験の差を痛感しました。次は予選から勝ち上がっていかねばなりません。ぜひ本戦出場を叶え、今年負けたベスト30以上の成績を残したいと思っています。

——では最後に、将来の目標・夢を教えてください。

近い目標は、2年以内にB代表入り。そしてナショナルの代表になり、海外の大会に参加してポイントを稼いで、2026年のアジア大会出場、最終的にはオリンピックで金メダルを手にすることが目標であり夢です。

——藤井先生からもひと言お願いします。

(藤井先生) 実業団へ行き、国際大会で勝利を重ねて行くのはやはり過酷な道です。うれしい結果が出ることもあれば、そうでないことも……。それに負けずになんげばってほしい。なにより誰からも応援される選手になってほしいですね。

——アジア大会で、オリンピックで、表彰台の真ん中に立つ姿を楽しみにしています。本日はありがとうございました。

